

拉致問題対策本部事務局の理解促進活動・情報発信

概要

- 拉致問題の解決には、日本国民が心を一つにして、全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現への強い意思を示すことが重要。
- 政府としては、拉致問題に関する理解促進活動・情報発信にも力を入れて取り組み。
 - ※ 特に、これまで拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代への啓発が重要な課題

国内向け理解促進活動

- ・ 広報媒体の活用
- ・ 拉致問題啓発舞台劇公演「めぐみへの誓い―奪還―」の開催
- ・ 「拉致問題を考える国民の集い」の開催
- ・ 北朝鮮人権侵害問題啓発週間における政府主催行事の開催
- ・ 「拉致問題に関する中学生サミット」
- ・ 中高生向け作文コンクール

海外向け理解促進活動

- ・ 国連シンポジウム
- ・ NYTimesでの広告掲載
- ・ NHK WORLDでの番組放送

情報発信

- ・ 北朝鮮向けラジオ放送

国内向け理解促進活動

広報媒体の活用

- ・ 拉致啓発ポスターやパンフレット製作・配布（団体、個人を問わず、ポスターの掲示やパンフレット等の活用による拉致問題の啓発にご協力いただける方をホームページ等で広く募集）。
- ・ 拉致問題対策ホームページ、YouTubeチャンネル、Xアカウントを通じて情報発信。
- ・ 内閣府庁舎1階啓発コーナー「拉致問題を知るひろば」の運営。
- ・ 映画「めぐみ—引き裂かれた家族の30年」の上映会並びにアニメ「めぐみ」及び「拉致被害者御家族ビデオメッセージ～必ず取り戻す！愛する家族へ～」の上映会を開催。



拉致問題啓発舞台劇公演「めぐみへの誓い―奪還―」の開催

- ・ 拉致問題の啓発に向けて、平成25年度から地方公共団体との共催により、舞台劇公演「めぐみへの誓い―奪還―」を開催。
- ・ 令和5年度までに61回開催。



国内向け理解促進活動

「拉致問題を考える国民の集い」の開催

- ・ 地方公共団体及び民間団体との共催等による啓発行事として、平成20年度から全国各地で「拉致問題を考える国民の集い」を開催。
- ・ 令和5年度までに79回開催。（令和5年度は、鳥取、山形、滋賀、香川、宮崎、大分、高知で開催）
- ・ YouTube拉致問題対策本部公式動画チャンネルでライブ配信。

「拉致問題を考える国民の集いin宮崎」（令和6年1月27日）のプログラム

○主催者挨拶

林 芳正 内閣官房長官兼拉致問題担当大臣

河野 俊嗣 宮崎県知事

○拉致被害者等御家族の訴え

横田 哲也 氏（拉致被害者 横田めぐみさんの弟）

水居 徹 氏（特定失踪者 水居明さんの息子）

○講演

西岡 力 氏（北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会会長）

演題：「最新情勢報告・全拉致被害者の即時一括帰国をめざして」

○中学生による意見発表

前原 惇之介さん（宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校3年生）

○発表者に対する謝辞

吉田 好克 北朝鮮に拉致された日本人を救出する宮崎の会会長

○宮崎からの決意宣言

中野 一則 宮崎県議会北朝鮮拉致問題解決促進議員連盟会長



拉致問題を考える国民の集いin宮崎
（林内閣官房長官兼拉致問題担当大臣出席）



拉致問題を考える国民の集いin滋賀
（工藤内閣府副大臣出席）



拉致問題を考える国民の集いin大分
（古賀内閣府大臣政務官出席）

国内向け理解促進活動

北朝鮮人権侵害問題啓発週間における政府主催行事の開催

- ・ 北朝鮮人権侵害問題啓発週間に合わせ、平成18年より毎年、政府主催で講演会やシンポジウムを開催。
- ・ 令和5年度は、12月16日に「政府主催 拉致問題に関するシンポジウム～全ての拉致被害者の一日も早い帰国の実現に向けて～」をイイノホール（東京都千代田区）で開催。YouTube拉致問題対策本部公式動画チャンネルでライブ配信。

第1部 北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール表彰式

第2部 拉致問題に関する中学生サミットの報告

第3部 被害者御家族からの訴え・有識者講演

(1) 林芳正 内閣官房長官兼拉致問題担当大臣による挨拶

(2) 被害者御家族からの「生の声」の訴え

登壇者：横田拓也 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会代表

飯塚耕一郎 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会事務局長

大澤昭一 特定失踪者家族会（北朝鮮による拉致の可能性を排除できない失踪者家族有志の会）顧問

(3) 講演

神保謙 慶應義塾大学総合政策学部教授、公益財団法人国際文化会館常務理事



国内向け理解促進活動：若年層への啓発の強化①

中学生サミット

- ・全国の都道府県及び政令指定都市教育委員会から推薦された中学生が東京に集まり、拉致問題について学ぶとともに、拉致問題を同世代、家族、地域の人に自分事として捉えてもらうための動画のアイデアをグループに分かれて話し合い、劇として発表。
- ・中学生が考案したアイデアを基に制作した広報動画や、サミット当日の様様を紹介したメイキング動画をホームページ上で公開。また、より多くの方に動画を発信するため、YoutubeおよびXにて令和6年2月上旬から約3週間デジタル広告を実施。



「拉致問題に関する中学生サミット」メイキング

4.4万 回視聴・2 か月前



「キャッチされないボール」 篇30s

29万 回視聴・2 か月前



広報動画の概要：

夕方の河川敷で、たわいもない会話をしながらキャッチボールを楽しむ2人の少年。だが、相手が突然いなくなり、投げられたボールはキャッチされることなく転がっていく…。

「ねえ、考えたことある？ある日、あなたの大切な人と突然会えなくなることを。」

国内向け理解促進活動：若年層への啓発の強化②

教員を目指す大学生を対象とした講座

・令和元年度から、教員を目指す大学生を対象に、授業の指導案を作成し、実際に授業を行うことを通して実践事例を積み重ねていく事業を実施（講師に地村保志氏等）。

令和5年度には岡山大学と共同で実施。

・令和5年12月16日（土）、東京・内幸町のイイノホール&カンファレンスにて、岡山大学教育学部生との拉致問題についての車座対話を開催した。

本対話は、林芳正拉致問題担当大臣兼内閣官房長官が、本講座の一環として政府主催シンポジウムに参加する学生9名から、若年層に対する拉致問題の啓発等について、率直な意見を聴取するために行ったもの。

冒頭、林大臣より、「拉致問題は過ぎ去った事件ではなく、今なお被害者が自由を奪われ、御帰国できない状態が続いている現在の問題です。日本国民が心をつなげて、全ての拉致被害者の一日も早い日本への帰国実現への強い意思を示すことが、問題解決への力強い後押しとなります。特に、これまで拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代への啓発が、重要な課題となっています。」と挨拶し、授業実践事業に取り組んだ学生から、若い世代への啓発にあたっての課題、気づきの点等を発表してもらった。

最後に、林大臣から、学生が授業実践事業に真摯に取り組んだことへの謝意を伝えるとともに、若年層に対する拉致問題の啓発活動の意義や重要性につき改めて強調し、参加者を激励した。



教員等を対象とした研修

平成30年度から小中学校及び高等学校の教員等を対象とした研修を実施（講師に蓮池薫氏等）。



国内向け理解促進活動：若年層への啓発の強化③

作文コンクール

平成29年度から、中高生を対象とした作文コンクールを実施。これまでの中学生・高校生部門に加え、令和2年度に英語エッセイ部門を、令和3年度に積極的に作品を応募した学校を表彰する団体賞を新設。優れた作品には大臣表彰を年末のシンポジウムにおいて実施。



教材等の配布

- ・ こども向けパンフレット（主に中学生対象）を配布
- ・ アニメ「めぐみ」を教材として全国の小学校、中学校、高等学校に無償配布。
- ・ 電子版コミック「母が拉致された時 僕はまだ1歳だった」を、電子図書館を通じて教育現場に無償貸与



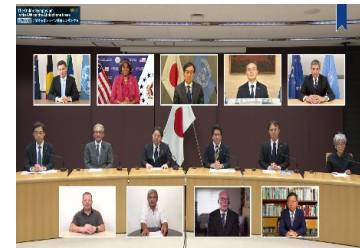
海外向け理解促進活動

- ・ 拉致問題の解決には国際社会との連携が重要であり、国際社会に向けた情報発信と連携強化に取り組んでいる。
- ・ 令和6年度は、6月27日に、日本、米国、豪州、韓国政府及びEUの共催で、国連のサイドイベントとして拉致問題に関する国連シンポジウムをオンラインで開催。

山崎和之 国連日本政府常駐代表・特命全権大使の開会の辞、林 内閣官房長官兼拉致問題担当大臣からの基調発言に続いて、各共催国等代表の挨拶、古屋圭司拉致議連会長の挨拶、拉致被害者等御家族からの「生の声」の訴えが行われた。その後のパネル・ディスカッションでは、北朝鮮をめぐる国際情勢に関する有識者による活発な議論が行われた。

本シンポジウムの模様は、国連Webテレビ（英語）及びYouTube拉致問題対策本部公式動画チャンネル（日本語・タイ語）で配信。

- ・ 拉致問題に係る意見広告記事を令和4年2月28日付でニューヨーク・タイムズ紙に掲載。
- ・ 令和5年1月に拉致問題に関する海外向け番組「北朝鮮による拉致問題を考えるー日本の拉致被害者御家族の訴えー」をNHK WORLDで4回放送するとともに、日・英・韓・仏・西語版をYouTubeチャンネルに掲載。



（全編）北朝鮮による拉致問題を考えるー日本
の拉致被害者御家族の訴えー



30分版



1分版

情報発信（北朝鮮向けラジオ放送）

内閣官房運営「ふるさとの風」「日本の風」

- ・ 拉致被害者に日本や北朝鮮を巡る状況、御家族からのメッセージ等を伝えるとともに、北朝鮮の人々に対して、我が国に対する理解を増進する情報や拉致問題、国内外の情勢を伝えるため、平成19年7月から「ふるさとの風（日本語）」及び「日本の風（朝鮮語）」を毎日放送。令和3年度からは放送時間を1時間/日拡張し、5時間/日放送。



特定失踪者問題調査会「しおかぜ」との連携

- ・ 平成28年4月から特定失踪者問題調査会との間の業務委託契約を通じて、しおかぜの番組の中で「ふるさとの風」の放送を行う等の連携を実施。また、令和4年度より委託放送の枠を拡大（30分/日→1時間30分/日）。
- ・ 政府が収録した拉致被害者御家族メッセージをしおかぜの番組の中で放送するための業務委託を実施。
- ・ 平成27年12月以降、特定失踪者問題調査会と共同でラジオ番組の公開収録イベントを開催。令和5年度までに20回実施。

林内閣官房長官兼拉致問題担当大臣による北朝鮮向けラジオ放送用のメッセージ収録（R6.5.28）

- ・ 令和6年5月28日（火）、林内閣官房長官兼拉致問題担当大臣は総理大臣官邸において、北朝鮮に囚われたままとなっている拉致被害者等に向けたラジオメッセージの収録を行った。（※）
- ・ 林内閣官房長官兼拉致問題担当大臣は、そのメッセージの中で、拉致被害者に向けて「再び祖国の土を踏み、皆様の一日も早い御帰国を待ちわびる御家族の方々と、再会して抱きしめ合う日が必ず来るとの思いを、どうか強く持ち続けてください」と呼びかけたほか、「拉致被害者の皆様に、拉致問題担当大臣として私自身、全身全霊で拉致問題の解決に向けて取り組むこととお誓い申し上げます」と自身の想いを述べた。

※ 収録したメッセージは、政府が運営する北朝鮮向けラジオ放送「ふるさとの風」及び特定失踪者問題調査会運営の「しおかぜ」で、それぞれ放送。

